

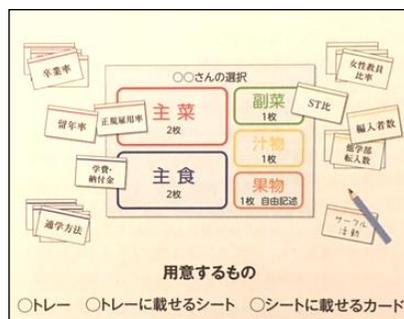
# 春告草

第 81 号 平成 29 年 11 月 8 日 進路指導部発行

## 大学に求めるものは？

「生徒、保護者、先生ら約60人がトレーを抱え、歩き回っていた。それぞれトレーに『主食』『主菜』を二つずつ、『副菜』『汁物』、デザート『果物』を一つずつ載せる。バイキングを思わせる動きだが、対象は料理ではない。

名付けて『大学の實力バイキング』。卓上に用意されたのは、退学率や留年率など『大学の實力』調査の主要項目を書いたカードだ。調査項目にはないが、進路指導で重視される入試難易度（偏差値）やブランドなどもカードにした。興味を引く項目がなければ、自由作成も可。進路選択には多様な物差しがあることを知り、自分で調べて考える——狙いをそこに絞った。」



今年の夏休み前、「自分の『物差し』で選ぶ」という見出しで掲載された新聞記事の冒頭の一部だ。

「大学の實力」は偏差値や知名度ではなく、どのような教育を受けられ、どんなキャンパスライフが送れるかで大学を選ぶことを目的に行われている調査である。2008年から始まり、今年で10年目を迎えた。「偏差値」は分布の中心（平均）からの隔たりを統計学的に処理したデータである。これは模試における各大学の志望者や合格者の成績をもとにして、難易ランクを表すときにも利用され、受験には重宝される「物差し」の一つだが、各大学の教育の中身を反映したものではない。入試も多様化し、面接や書類で選ぶAO入試など、筆記試験なしの入学者は私大で半数を超え、その傾向は国公立大にも拡大し、偏差値では測れない入試が増えている。

6年生はこれから志望校を絞っていかなければいけない。あらためて、自分の志望校がその物差しで測って見たら、どう評価されるのかを知っておいてもよいだろう。4年生、5年生も同じだ。「大学の實力2018」の調査結果をもとに、他にどんな物差しがあるのかを考えてみたい。

## 大学で何をしたいのか？

大学を評価する際、いろいろな物差しがあると書いたが、そのためには何を測るのかをはっきりさせなければいけないだろう。何を学びたいのか、どんな大学生活を送りたいのか、その先の夢は何だろうか。まずはこのように「大学で何をしたいのか」を思い定めておこう。

学びたい内容に近い大学・学部が決まったら、各自が気になるポイントをチェックしていく。学費が気になるなら、学納金はどちらが高いか、給付型奨学金の充実度はどうか、一人当たりの受給額はどうかという点だ。留年率が高い大学・学部は進級要件が厳しく、しっかり勉強しなければついていけないかもしれない。データを見て、自分の大学生活を想像しながら考えてみよう。

## 退学・留年・卒業・就職

「もし世界が100人の村だったら」ではないが、もし4年制大学への入学者を100人とすると、そのうち11人が留年し、7人は退学。4年間で卒業できるのは82人で、そのうち正規雇用されるのは62人という調査結果が出ている。

卒業時の進路状況(2013年度4年制学部入学生)

	卒業率	退学率	留年率	正規雇用率	進学率
男子	77.0	8.6	14.3	55.1	13.6
女子	87.5	5.4	7.1	71.0	6.3
計	81.8	7.2	11.1	62.3	10.3

(単位:%)

## ■「一括採用」背景に、高い「留年率」

進級せずに元の学年に留まる留年率は、成績不良といった本人の責任だけでなく、海外留学を理由にした留年によるものも多い。今回の調査で留年率の上位を並べてみると、いずれも「外国語」や「国際社会」を専攻し、留学する学生が多い学部だった。

東京外国語大によると、外国の大学に留学するだけでなく、現地で働きながら学ぶことを選択する学生もいるという。また最近では、交換留学であっても留学先で取得した単位を使わずに、留年するケースが増えている。これは帰国が就職活動の時期と重なり、スタートが遅くなって活動するよりは、あえて留年し、志望する企業の内定を取りたいと考える学生が多いことによるものだ。

「留学留年」の根底にあるのは、多くの企業がこだわっている「一括採用」だ。ある時期に集中的に採用活動する方が企業にとって効率が良いからだという。

また、薬学部・歯学部も留年率が高い。それぞれ国家試験の合格率を下げないよう進級条件を厳しくしていることが背景にある。

外国語系学部のみられる高い留年率

大学・学部	男子	女子	計
大阪大・外国語	71.0	62.9	65.8
東京外国語大・言語文化	69.4	62.9	64.9
東京外国語大・国際社会	69.7	61.1	64.5
神戸市外国語大・外国語	65.8	61.4	62.7

(単位:%)

## 学ぶ習慣をつけるためのさまざまな取り組み

大学1年生の学習時間は1日1時間以下——今回の調査では、学生の学習時間の少なさが浮かび上がった。毎回の授業で課題を出す、24時間学べる場を用意するなど、学習時間の増加に向けて、大学はさまざまな取り組みをしている。

### ■学習は「1日1時間以下」が68%

回答した全2319学部の半数以上にあたる1204学部が学習時間の調査を行っていた。うち1年生の対象のデータでは、1週間の学習時間の最多は「1.1時間～5時間以下」の47%。「7時間以下」「1時間以下」も合わせると68%となって、大半が「1日1時間以下」しか学んでいない計算になる。学部別のデータは右図のとおりで、実験や実習が頻繁で、予習・復習が欠かせない理系学部の方が文系よりも長い結果が出ている。

### ■やる気アップ作戦

学生の学習意欲喚起には、課題を添削して返すことも大切と、622学部、全体の4分の1強が添削して返却するよう教員に促している。学外でアルバイトをする時間を少しでも減らそうと学内で働ける場を確保している大学は47%にのぼる。国立の広島大学では2006年度から、シラバスに予習・復習のための文献を載せたり、添削指導をするよう教員に求めてきている。2年前からは学生が授業の補助をする場を設け、今年度は441人の学生が登録し、時給800円で働いているという。

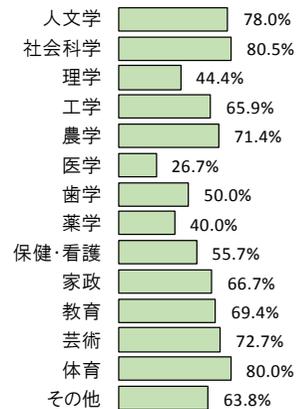
「いつでも学べる場」が必要と、授業で使っていない教室を「ラーニング・コモンズ」として開放し、教員や大学院生が交代で、学習支援にあたる大学も目立つようになった。図書館に「学べる場」を設ける大学もある。近畿大学では今年度4月に、総工費約500億円をかけて開設した図書館に、24時間年中無休で利用できる自習室を設置した。

### ■ST比

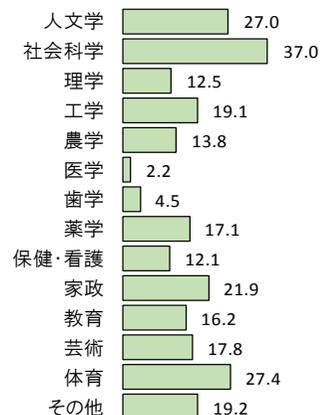
1人の先生が何人の学生を担当するかを表す数値である。単に高い、低いだけでなく、学部の特性も考慮しなければいけない。最も高いのは法、経済、商など社会科学系の37.0。1人の先生が37人の学生を担当する。「大学設置基準」で教員と学生人数の比率は学部ごとに決められていて、最も少ないのは医学部である。ただ、ST比が低ければ退学率も低くなる、とはいいきれず、社会科学系の平均退学率7%に対して、工学部のST比は社会科学系の半分の19.1だが、退学率は8%である。工学部は課題が多く、進級条件が厳しいことも理由だろう。

(裏面に続く)

授業時間を除く1週間の学習時間(平均)が7時間以下だった学部の割合



学部系統別のST比



## ■読む習慣 入学前に

大学で学ぶために、本や新聞を読む習慣を身につけてきて——。入学前、高校生時代に身につけておいてほしい生活習慣を尋ねたところ、最多は「本を読む習慣」「読書」（北海道大、筑波大、お茶の水女子大など）や、「新聞を読む」（早稲田大、神戸大、新潟大など）など、「読」を含んだ回答で、延べ378学部へのぼった。これまでの調査でも「学生が新聞を読まない」「そのために書く力も落ちている」のコメントが寄せられていたが、学生の読む力の欠如は大きな課題となっている。このほか、「挨拶をする」「目を見て返事をする」「まじめに話を聞く」など、人と接する際の基本的な態度に言及するコメントが目立っていたというから、驚きなのだが…。

## 卒業までの費用の確認を

卒業までの経費も大事なチェックポイントである。大学生活を続けるには、予想以上にお金がかかるものだ。

### ■学費・生活費・就活費

調査で尋ねているのは、すべての学生が必ず負担する入学金や授業料、設備費など。最低この位の金額は必要だということだ。実験・実習などがある学部は、これ以外の負担を別に求められる場合があり、在学中に留学が義務付けられている大学では、その為の費用も考慮に入れなければいけない。

卒業までに必要な費用を算出する際には、さらに教材費やパソコン、交通費、就活中の交通費やスーツの購入費も計上しなければいけないが、高校までと異なり、大学のテキストは高価だ。1冊数千円はまだいいほうで、医療関係は1万円前後の専門書はざらだ。

納付金の平均額を設置形態・学部分類別にまとめたのが右表である。国立大学の学費はこの40年間で50万円近く値上げされた。私立大学の学費は国立の1.6倍だが、以前に比べれば、相対的な差は小さくはなった。

### ■大学独自の奨学金

奨学金制度の有無もチェックしよう。日本学生支援機構の奨学金が広く知られているが、大学が独自に導入している給付型奨学金が利用できれば有難い。奨学金財源にゆとりのある大学も少なくないが、「給付型奨学金の存在を学生が知らない」（私大理事長）ことも背景にあって、十分に利用されていない面があるようだ。関心のある大学に奨学金の受給条件、申し込み時期などを問い合わせるのも一案だ。貸与型奨学金の場合は、「借金」であることを十分に承知しておく必要がある。奨学金の返済ができない延滞者も少なからずいて、社会問題にもなっている。

## 卒業後の進路

大学卒業後の進路状況は男女差がみられた。2013年度の4年制学部入学者（17年3月卒業）のうち、男子は正規雇用55%、大学院進学14%である。女子は71%が正規雇用で、進学は6%に止まり、男子より就職を選ぶ傾向が強くなっている。

正規雇用状況の学部分類では、上位3位は、「保健・看護」「家政」「社会科学」。最も高かったのは、女子の「保健・看護」で81%、ついで「家政」の78%だった。

一方、進学率のトップは、男女とも「薬学」。薬剤師を目指す6年制とは別の、創薬を専門とする4年制学部で男子は75%、女子は52%が進学していた。薬学部は全体的に学費が高いため、大学院進学を想定して大学選びをするのが現実的だ。「理学」「工学」も男女とも30%前後の進学率だが、企業は理工系学生採用の際、「修士課程修了」を想定している場合が多く、こちらも大学院の学費負担をあらかじめ考慮に入れておく必要がある。

6年制の医、歯学部の卒業後は、一般的に臨床研修だ。医師となるには2年以上、歯科医師には1年以上の臨床研修が義務付けられている。2011年入学者で臨床研修の状況を見ると、「医学」の男子75%、女子82%に

4年間(6年制は6年間)の納付金額

設置形態・学部分類別	最小(万円)	最大(万円)
国立・4年制	120	350
国立・6年制	243	414
公立・4年制	121	344
公立・6年制	346	470
私立・4年制	166	1707
私立・6年制	180	3953
人文学	121	680
社会科学	120	976
理学	222	730
工学	122	1707
農学	234	1416
医学	243	3953
歯学	243	3308
薬学	180	1394
保健・看護	214	857
家政	234	711
教育	148	658
芸術	228	886
体育	243	669
その他	121	748

※夜間の学部を含む。農・医・歯・薬学部と「その他」は4年制・6年制を区別せずに集計

大学独自の給付型奨学金

設置形態	1大学あたりの平均		
	総額	受給学生数	1人当たり奨学金額
国立	11,048万円	477人	23万円
公立	4,555万円	188人	24万円
私立	11,160万円	318人	35万円

※学費減免を含む

対し、「歯学」男子は46%、女子61%と歯学が大きく下回ったが、留年率の影響であることは前に述べた通り。

6年制の「薬学」も留年率が卒業後の就職に反映している。正規雇用は、男子54%、女子65%。薬剤師などの職につけた人は、入学者の6割に止まっている。

## それぞれの物差しで大学を評価してみよう

すべての大学の比較表を載せるわけにはいかないので「全国684進学校の進路指導教諭が選ぶ **イチ押しの大学はここだ!**」(大学通信・卓越する大学2018年度版)に掲載されたランキングから「生徒に勧めたい国公立大学」「生徒に勧めたい私立大学」の各上位校の調査結果を紹介する。

### 生徒に勧めたい国公立大

	大学名	入学者に占める割合(%)					ST比	自学自習			4年間の納付金		1人あたりの奨学金(万円)
		卒業	留年	退学	正規雇用	進学		毎回課題	課題添削	24時間	最小額(万円)	最大額(万円)	
1	東京大	77.4	22.2	0.4	22.9	44.4	7.9				243	243	26
2	京都大	76.8	22.1	1.2	20.9	53.2	6.5	0	0	1	243	243	22
3	東北大	87.7	10.4	1.8	29.2	55.7	3.5	0	0	2	243	255	63
4	大阪大	73.6	24.6	1.8	27.4	42.9	8.6	2	2	4	243	243	78
5	東京工業大						2.2	7	7	0	243	247	23
6	名古屋大	87.4	11.8	0.8	32.0	52.6	4.0	0	0	1	243	248	28
7	国際教養大	65.4	28.3	6.3	61.6	3.8	12.8	0	0	2			
8	一橋大	71.0	27.3	1.8	62.4	6.2	19.3	4	0	0	244	244	26
9	北海道大	87.2	11.4	1.3	非公開	非公開	4.7	0	1	3	243	243	21
10	九州大	85.0	12.5	2.6	26.0	51.6	7.6	0	2	5	243	350	15
17	首都大学東京	83.7	15.0	1.3	非公開	非公開	10.2	0	0	1	222	237	
—	電気通信大						4.7				243	243	50
—	東京外国語大	32.0	64.7	3.3	25.9	4.2	17.7				243	243	18
—	東京農工大	88.0	10.1	1.8	17.2	69.3	10.0	2	0	0	243	243	18

### 生徒に勧めたい私立大

	大学名	入学者に占める割合(%)					ST比	自学自習			4年間の納付金		1人あたりの奨学金(万円)
		卒業	留年	退学	正規雇用	進学		毎回課題	課題添削	24時間	最小額(万円)	最大額(万円)	
1	慶應義塾大	76.6	20.4	2.9	54.1	17.0	18.9	0	0	2	462	789	45
2	早稲田大	78.3	19.1	2.6	55.1	17.7	24.2	0	1	13	464	658	48
3	国際基督教大	76.0	19.7	4.3	53.1	15.4	18.9	0	1	0	600	600	68
4	東京理科大	78.8	14.2	7.0	32.3	43.2	20.9	1	7	0	319	678	20
5	上智大	71.7	24.9	3.4	54.9	11.9	23.2	2	2	0	437	653	32
6	同志社大	79.2	17.2	3.6	62.3	11.2	33.5				434	663	35
7	明治大	83.3	13.3	3.0	67.3	9.8	31.4	0	2	0	460	660	31
8	立命館大	76.8	18.9	4.2	58.3	12.0	26.9	2	3	0	397	746	31
9	立教大	80.5	17.7	1.8	68.7	4.5	31.5	1	0	0	435	746	32
10	青山学院大	78.2	17.9	3.9	65.6	7.2	31.8				473	675	26
12	中央大	84.3	12.1	3.7	66.9	10.9	40.7				437	653	
15	法政大	83.1	非公開	2.8	70.7	7.7	39.3	15	15	0	446	1207	23
18	学習院大	84.8	12.5	2.7	69.1	6.8	34.7				435	646	19

※入学者に占める割合は、2013年4月の入学者が2017年3月に卒業した数の比で6年制学部を除いた4年制学部全体の集計である。自学自習に関しては、毎回の授業で課題を課しているか、課題を添削して返却しているかの調査で実施している学部数を表記している。24時間は、図書館またはそれ以外で24時間学習できる施設数の合計である。納付金は入学金、4年間の授業料の合計で、6年制学部を除いた調査である。

## 自分の母校となる大学をよく調べよう

高校生のうちに大学を調べるチャンスはいくらでもある。オープンキャンパス、授業公開や模擬授業、インターネット情報などだ。でも漠然と雰囲気だけで選んだり、偏差値頼りの大学選びになりがちで、自分が受験生の時と「物差し」は変わっていない状況がある。大学は昔と随分変わった。いろいろな選抜方法で学生募集をしているのは、多様な学生を受け入れようとする大学の方針の表れだろう。ぜひ、いろいろな「物差し」を使って母校となる大学を調べてみてください。

「大学の實力2018」(中央公論新社)

